

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和 6 年 3 月 29 日

公表:令和 6 年 4 月 1 日

事業所: チャイルドサポート ～森のまち～

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動スペースを明確に区分している	利用時間の区分を調整する
	2	職員の配置数は適切である	○		個別ニーズに適した配置を実施している	利用者個々のニーズに合うスタッフ配置を検討し実施する
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	△		段差を少なくしている	室内は段差はないが居室が2階にあるため限界がある
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		月1の定例以外にも随時ミーティングを実施している	グループLINEや調整アプリの活用
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の意向を十分に汲み取るよう工夫している	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		玄関に掲示板を設置	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現時点では外部機関は入れていないが、将来的には、第三者評価制度を導入の予定
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内での研修を随時開催している	事業所内での研修だけでなく外部の研修も組み合わせる
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者と時間をかけてじっくりと話し合っ作成している	学校や福祉関係者の連携も重視している
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		職員間の共通認識としている	HUGのいっそうの活用
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		利用者のニーズに合った立案をしている	利用者の個別ニーズに対応する
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		飽きの来ない療育の工夫をしている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		ニーズに合わせた取組を実施している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		特性や状態、ニーズに合わせ綿密に打合せをしている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		随時ミーティングを実施している	自宅やスマホから各自がアクセス可能なHUGシステムをより一層の活用していく
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日終礼を実施し問題点の洗い出しをしている	HUG、グループLINEの活用
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援当日夜には確認できるようにしている	HUGの活用で支援内容をさらに透明化する
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		随時保護者との綿密な打合せ	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		不登校児童への積極的な取組み	ガイドラインのみだと不十分な場合が多々あるのであくまで「本人本位」の支援を実施する	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		責任者が出席している	会議等の内容については、当日のうちに職員間で共有する
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		絶えず学校(担任や学年主任、教頭)と連絡を取り合っている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	-	-	-	-
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	-	-	-	中高生を対象としているため該当せず
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		関係機関と常時連携している	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		関係機関と常時連携している	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	△			地域の方々と接する機会を今後増やしていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		色々な場面での「繋がり」を重視している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		毎日必ず何らかの連絡を取るようになっている	HUGを有効に活用している
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		自然な会話の中で実施している	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に十分に説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		随時対応している	運営協会関連事業としてさまざまな体制での支援の充実を図っていく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	△		随時対応している	今後、保護者同士の横の繋がりも考慮する体制を構築していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		随時対応している	今後、事業所連携、家庭内連携の頻度をあげ、切れ目のない支援に繋げる
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月1度便りを発刊している	
	35	個人情報に十分注意している	○		最重要課題に位置付けている	職員・パート、ボランティアを問わず、個人情報保護規定の遵守に努めている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		随時対応している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		随時見学を受け付けている	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		面談時、契約時周知している	折に触れ、職員・利用者・保護者・関係機関へ周知し、実効性のあるものにする
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	△		面談時、契約時周知している	今後、いっそう充実させていきたい
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		随時対応している	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束はしないようミーティングで周知している	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	—		飲食物は提供していない	今後も飲食物の提供をしない
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		随時対応している	